

イサム・ノグチ  
庭園美術館  
香川県

イサム・ノグチが愛した空間を  
鑑賞できる稀有な美術館

20世紀を代表する彫刻家イサム・ノグチが晩年の20年間、創作の場とした牟礼。その空間全体を一つの「作品」として味わえる美術館をご紹介します。



石壁を背に2つの石は、遠望する五剣山に捧げるように置かれた。ノグチのアトリエの雰囲気を感じることができる。

写真提供:イサム・ノグチ庭園美術館

写真:野口ミチオ(2点とも)



野外アトリエの彫刻群。今もノグチの手が加わるのを待つ未完成品も。



丸亀の豪商の家を移築した住宅「イサム家」の内部。1階のたたきの土間にはテーブル状の作品『空間のうねり#2』が置かれている。



香川県内にはイサム・ノグチがデザインした遊具が数カ所に設置されている。写真は美術館横の山椒山公園にある『シーソー』。

ウェーデン、アフリカ、インド、また日本各地の硬い石を使って作品が次々と生まれました。庵治石のような「堅石」は、彼が彫刻を学んだヨーロッパで使われる大理石に比べると細かい細工が難しいとされます。しかし逆に、人間の手で強引に作られたのではない、偶然に割れた形や断面の美しさにノグチは魅了されたのです。

庵治石を産する五剣山ごけんざんを遠くに望む土地に、まず円形の石垣に囲まれたアトリエ「マル」を築き、江戸時代の商家を移築した住まい「イサム家」、80年代には大作『エナジー・ヴォイド』を収蔵する「展示蔵」、裏山の斜面を生かした彫刻としての庭が作られました。79歳の誕生日を自ら祝って作られたこの彫刻庭園には、故郷

の思い出として、ユーカリの木と風になびくウェービンググラスが植えられました。「芸術はすべて未来への贈り物」という言葉を、誕生日の前に記しています。

**今もノグチの帰りを待つ  
未完成の作品**

「自分の死後もこのままの形で残し、世の中のために役立ててほしい」というノグチの思いを受け、和泉氏をはじめ多くの人の尽力と10年の準備期間を経て1999年にオープンしたのが「イサム・ノグチ庭園美術館」です。150点あまりの彫刻作品はもとより、自ら選んで移築した建物、庭園をふくむ全体をノグチの「作品」として鑑賞することができます。

住居「イサム家」では、日本の伝統工芸の岐阜提灯を西洋のデザイン感覚でモダンな光の彫刻に変えた「Akari(あかり)」が、ノグチの生前そのままに灯ります。作品を取り巻く展示蔵の空間、牟礼の自然を借景とした四季折々の庭の眺めなど、訪れる人によって楽しみ方はさまざまです。

野外アトリエには完成した彫刻だけでなく、未完成とみられる作品も点在しています。どこをどう削り、どのような作品に仕上げたいと思ったのか。ノグチの思いに呼応し、自分の創造力も刺激される体験もできる美術館と言えます。



左/平和を願って作られた『エナジー・ヴォイド』。酒蔵を移築した空間に佇む。右/住居「イサム家」でくつろぐノグチ。世界をこの優しい光「Akari(あかり)」で包みたいと願っていた。

写真:野口ミチオ(2点とも)

故郷を持たない芸術家の  
心をとらえた牟礼の自然

皆さんは「庵治石」をご存じですか？

香川県高松市牟礼で採れる良質な花崗岩のことです。この石が採れる牟礼に、日本の自然をこよなく愛した世界的彫刻家「イサム・ノグチ」の美術館があります。

ノグチイサムは1904年、英文学者、詩人でもある父の野口米次郎と、作家のレオニー・ギルモアである母との間にロサンゼルスで生まれました。ノグチは3歳から日本で過ごし、14歳で単身アメリカに戻り、以降は世界各地を旅するようになり創作に打ち込みました。

幼少期、日本で過ごしたノグチは、美しい日本の四季から繊細な感性を育み、アメリカでは母レオニーが望んだ芸術の道を目指しました。日本とアメリカどちらに自分は属すのかという自問は続いたようですが、西と東、ボーダーなき世界を生きた稀有な芸術家でした。

晩年、ノグチの心をとらえたのが、花崗岩の産地・牟礼の自然、人でした。ブラジル産の硬い石を使って大きな作品を作りたいと、この地を訪れ、そこで出会った和泉正敏氏を制作パートナーに、大作『黒い太陽』が誕生。この作品完成後、ノグチと和泉氏の20数年に及ぶ共同作業が始まりました。二人は石を探して各地を旅し、ス

見て、触れて楽しむ、イサム・ノグチの彫刻遊具

お楽しみ周辺SPOT

日常生活の中にアートを持ち込むエレメントとして、遊具のデザインにも注力したノグチ。自然や古代文明にある形を抽象化し、子どもたちへ宇宙への夢を託したものです。美術館近くに、この10月開設された「高松市牟礼源平広場」では、そんなノグチの彫刻遊具が楽しめます。1つは滑らかな曲線が特徴的な『プレイスカルプチュア』。2つめは、球体状のヴォイド(空虚)を八面体にした「オクテトラ」。美術館を訪ねた際は、ぜひお立ち寄りください。



プレイ スカルプチュア オクテトラ

●「高松市牟礼源平広場」香川県高松市牟礼町牟礼2774-6  
イサム・ノグチ庭園美術館から徒歩約5分。

イサム・ノグチ庭園美術館

住所 香川県高松市牟礼町牟礼3519  
電話 TEL.087-870-1500  
料金 一般・大学生2,200円  
高校生1,100円(中学生以下無料)  
開館 火・木・土10:00-13:00・15:00の1日  
3回(約1時間)  
※予約制(往復葉書・FAX・Eメールにて日時指定で申込)  
交通 ことん八栗駅から徒歩で20分。JR高松駅よりタクシー約25分、高松空港よりタクシー約45分  
HP <http://www.isamunoguchi.or.jp>